

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 424

事業名	私立保育園離島運営費補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3002			項	児童福祉費・2項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠		目	保育所費・4目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	(法令、条例、要綱等)	南あわじ市補助金交付規則、南あわじ市民間保育所運営費補助金交付要綱		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	子どもを産みたい_育てたいまち[子育て]			
	施策目標	子どもや要介護者をもつ共働き夫婦などが、安心して生活できるよう、地域全体で支える			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳) ぬしま保育園(市内の定員20人で認可を受けた小規模保育所)				構成人数(人) 20
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 入所児童数の大幅な減少により、保育園の運営が困難になるので、補助金を交付することにより、保育園の健全な運営及び保育内容の充実を図る。				
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 大幅な定員割が続く中、定数に充たない児童に係る補助金を交付する。				
	団体の概要	ぬしま保育園は、昭和30年に認可された定数20人の民間の小規模保育所である。認可当初の定数は45人であった。沼島地区は極端な少子高齢化による過疎のための人口減少が進行しているため、保育園の入園児数も減少の一途で定員割が続いており、運営費の大幅な赤字の中、保育園の存続が危ぶまれる。				
		事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ()
					<input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
	補助金算出根拠	当該保育所に入所する児童数が、各月の初日における定数の4分の3未満の場合に補助をする。補助金の額は、ぬしま保育園の定数から各月の初日における入所児童数を減じた人数1人当たり4万円を補助する。				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前におけるの事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input type="checkbox"/> 旧緑町	<input type="checkbox"/> 旧西淡町	<input type="checkbox"/> 旧三原町	<input type="checkbox"/> 旧南淡町	<input type="checkbox"/> 旧広域事務組合	<input checked="" type="checkbox"/> 新市から

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	0	4,880	5,960	4,800
	民間保育所運営費補助金		4,880	5,960	4,800
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	0	4,880	5,960	4,800
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	0	4,880	5,960	4,800
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	0.0	244.0	298.0	240.0
受益者人数(10)一人当り経費(千円)	0.0	488.0	596.0	480.0	
経費に関する 補足説明	保育園の定員割れに対する補助なので、入所人数が毎年増減するため経費は変わってくる。				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 18年度は運営費補助、その他補助、前年度繰越金、園長寄附により円滑な運営であった。4点をつけたのは、18年度は何とか円滑に運営できたが、繰越金も底をついているので、翌年以降はこの金額の補助金だけでは運営が困難になると思われる。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 沼島地区の就学前の乳幼児合計数が、ぬしま保育園の定数以下であるが、離島であるがゆえの入所児童数の減少である。保育所は保護者にとっても必要不可欠であり、保育所を存続するためには補助の必要性が強い。	自己評価 (5点評価)
		5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 絶対人数が少ない中で、保育園の設置・運営は必要不可欠で、保育園が円滑に運営ができなくなると市が直営で運営しなければなるので、保育園を存続させるためには補助金の交付は必要である。	<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>就学前の乳幼児数が定数の20名を下回っていることから定員割れは必至であるので、現状どおり補助することとする。</p>	<p>今後、入所児童の増加は見込まれず大幅な定員割れが予測されるので同額の補助金を交付しても赤字運営になり保育所廃園の恐れがある。</p>
(現状維持以外の改善方法)		<p>保育園を存続するならば、適正に運営している公立保育所をぬしま保育園に民間委託をし、現ぬしま保育園を分園として1つの保育園として運営。</p>
改善によって期待される効果		<p>沼島地区の市民、保護者にとって在住地区に保育所があることで、安心感があり、子育てのしやすい環境を整えることができ、保育園児、保護者も交流により活気あふれる状況となる。また、公立保育所を民営化することにより補助金の交付の必要性がなく市も人件費、管理費など大幅なコスト削減が見込まれる。</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>事業が中止になれば、運営できなくなり、民間保育園の経営が成り立たなくなる。そうなれば、市が直営で運営しなければならなくなり、市にとってかなりの負担増となる。また、仮に沼島地区から保育所を廃止して、近隣の灘保育所と統合しても通園の問題、現園長、職員の処遇の問題や、沼島地区の過疎が一層加速され、地域住民の子育て不安が生じてくるであろう。</p>	